

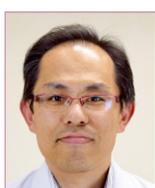
再生医療センター



センター長

内尾 祐司 教授

専門分野：関節軟骨損傷に対する自家軟骨細胞移植
資格：
日本整形外科学会整形外科専門医
日本整形外科学会認定スポーツ医
日本整形外科学会認定リウマチ医
日本整形外科学会認定リハビリテーション医
日本手外科学会手外科専門医



副センター長

竹谷 健 教授

専門分野：
小児難病および難治性急性移植片対宿主病 (GVHD) に対する間葉系幹細胞移植、小児造血幹細胞移植、難治性造血器腫瘍に対するCAR-T細胞治療



スタッフ

松崎 有未 教授

専門分野：
高純度間葉系幹細胞 (REC) の単離・培養



スタッフ

鈴木 律朗 教授

専門分野：
造血幹細胞移植、急性GVHD に対する間葉系幹細胞移植、難治性造血器腫瘍に対するCAR-T細胞治療

再生医療とは体外で培養した幹細胞等を患者さんの体内に移植し
損傷した臓器や組織を再生させ、人体機能を回復させる医療です。

診療内容

再生医療センターのミッションは、①島根県の患者さんに安全・有効・迅速に再生医療を提供する。②再生医療を進展させ有効な治療法の確立、患者さん・ご家族のQOL/ADLの向上、医療費や社会福祉費の負担軽減に貢献する。③再生医療の診療ならびに研究を通じて、医師、技術者、研究者のトレーニング及び学生教育といった人材養成に寄与する。④地域の企業、公共団体の研究施設と共同研究を行うことで、地域産業の発展につなげることにあります。

業務は、①再生医療等に用いる特定細胞加工物の製造及び再生医療等提供機関への提供、②再生医療等の提供計画に関する助言、③再生医療等に関する届出業務、④再生医療等の管理、⑤再生医療の診療および研究の支援などを行っています。

特徴

1) 整形外科関節軟骨欠損に対する自家軟骨細胞移植

1996年に日本で初めて自家軟骨細胞培養移植術を66例行い、培養軟骨ジャックは27人に実施しており順調な臨床成績を得ています。

2) 低ホスファターゼ症に対する骨髄移植併用同種間葉系幹細胞移植

骨がなくなる低ホスファターゼ症3名に骨を作る細胞である間葉系幹細胞を移植することで骨を再生させることに成功しました。

3) 難治性急性GVHDに対する間葉系幹細胞

これまで、成人と小児を合わせて12例に実施しており、一定の効果を認めています。

4) 超高純度間葉系幹細胞 (REC) を活用した医師主導治験の実施状況

重症低ホスファターゼ症小児患者を対象とした医師主導治験を行っています。

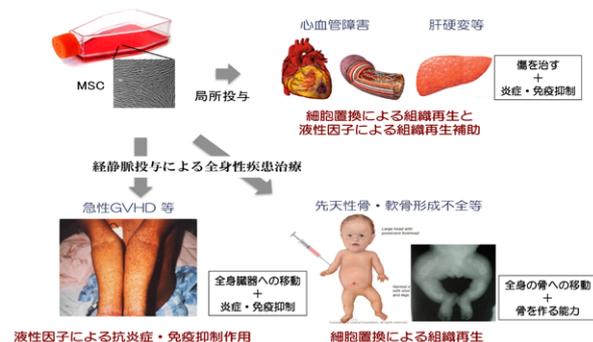


A. 移植前

B. 移植後

培養軟骨ジャックによる軟骨移植術。16歳、男性。
左大腿骨内側顆離断性骨軟骨炎。

A. 移植前、赤矢印：関節軟骨離断部、B. 移植後8か月



間葉系幹細胞 (MSC) を用いた細胞治療